

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57 ポートピア松江ビル4階		
自己評価作成日	令和5年12月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働きやすい環境である。スタッフに無理はさせず、かなり自由に希望休等をとってもらっている。コロナ五類移行に伴い、他施設より早い時期からイベント等への参加を開始している。家族面会も自由度が高く、泊り外泊にも対応している。スタッフから出たアイデアをすぐに行事として実現できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今迄の暮らしを継続し日々利用者との関わりを大切に共に過ごせる様に努めている。2ユニットの交流も良く果物狩りに行けない時期は紙製の手作りした木に果物を吊るして果物狩りを楽しみ、よそ行き衣装を家族から持って来て貰いファッションショーを開催して喜ばれた。開設当時から地域の人との関係づくりに努め運営推進会議にも地域の役員、自治会の関係者等の出席も多く防災等に対する協力も強い。県外家族に向けてはラインやインスタグラムにて苑内の行事や雰囲気発信してニーズに沿った支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につく場所に掲示して朝礼にて唱和をしている。新入社員にも理念を伝え、年度初めには振り返りをしている。	6つ理念が一人ひとりの利用者に沿った支援になる様に職員全員で共有し、今迄の生活習慣を大切にしながら話し合い寄りそっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会議等で苑の様子を伝えている。BCPIについての話し合いや協力体制についても確認ができた。祭りやこそけん野菜販売など地域の行事の予定を把握し外出の機会を作っている。その際、家族の参加を募り協力のもと外出して頂いている。	人込みを避けてどう行列を見に行ったり中学生の職場体験学習、専門学生の体験実習等も少しずつ感染対策をしながら受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度から運営推進会議もはじまり、地域の方が会議室を使用されたりしている。運営推進会議を通して、地域の方や家族から直接意見を聞き参考にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の一時避難所になっていることから、運営推進委員の方にも避難訓練に参加して頂いている。地域の方から、衣類や新聞を頂いたりしている。	コロナ禍で3年ぶりに対面で開催した。地域関係者も多数参加があり防災に関する事、面会や外出方法の変更等事業所の取り組みを報告し意見、助言を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	松江市の担当者の方や生保の方などと事前に相談を行った。また、松江市から直接相談を頂くこともあった。	日頃から事業所の実情や取組を伝え協力関係を築いている。コロナ発生時に県や医師、保健所から直接消毒液の見直しや使い方の指導を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止、虐待防止委員会にて研修を行い、皆で話し合う機会を作っている。センサーの見直しも定期的に行っている。	事業所内、外で研修をし、正しい知識と理解を深めている。事業所内研修では担当職員を決め研修会を開催し、自発的に意見が出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの見直しは連絡ノートへ記入している。毎月一度、各ユニットで集まり、会議でケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑にて、対応が必要な方がおられる場合には支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって説明を行っている。リスクや看取りについても説明し、了承をして頂ける様お話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族、委員、松江市からの意見を頂いて運営に反映している。家族には面会や電話にて様子をお伝えしている。	電話やラインで生活の様子を報告し「敬愛苑便り」では写真入りで送付し喜ばれている。「誤嚥性肺炎について事業所で学習会をしたらどうか」等の意見も貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、定例会議、各委員会で職員同士意見を出し合い、運営に反映させている。	日頃から会話、会議の中で広く職員の意見を聞く機会がありいつでも業務改善、働き方改善の提案がしやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休み希望などなるべく要望に応じている。重度化により、職員負担の軽減の為、記録や業務内容の見直しを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加後、施設内研修も行っている。職員の力量や希望も聞き、研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度よりグループホーム部会がはじまり、また、介護支援専門員の集まりを通して、他事業所の方との交流を深め、施設での取り組みと相談できる機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や第三者から情報入手し本人に確認しながら関係作りに努めている。 意見等出にければこちらから生活上の具体例を聞く等している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけて聞いている。 今思わなかったことでも、後でいつでも話を聞くことを伝え、安心して話をしてもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHなので他サービスは難しいが、一番必要なことはアセスメントで見極め、ケアプランの優先上位に組み込んでいる。 転倒、持病のリスクを把握し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上必要な家事等を一緒に行い、時には知恵をいただき参考にさせてもらったり、当時の話や関連する話をしてもらい、お互いの楽しみにさせてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事や、必要な支援の依頼を行い、ともに支えていく。本人のケアプランで悩んだときに、家族にもアイデアを求めている。それが外出支援につながっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地を散歩したり、電話で友人・知人とお話ししていただいている。馴染みの地までドライブに行くこともある。	友人、知人、家族の面会も少しづつ居室で行っている。家族と一緒に自宅の隣の知人の所へお茶飲みとおしゃべりに行った利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席配置等に気を配っており、スタッフが何も言わなくても食事用エプロンをつけようとされることがあったり、重度の認知症利用者のもとへいかれ、毎日声をかけられたりする利用者もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、家族や転居した施設などから相談等あれば応じる姿勢をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の思いや意向を生活の中からくみ取ろうと努めている。家族からも情報を集め、本人の望む形に近づけるよう努めている。	日頃の関わりの中で石見神楽やサーカスが大好きだった事が把握でき、職員と一緒に見学に行った利用者もいる。なるべく希望に沿える様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や施設に赴き、生活歴や馴染みの暮らし方や環境等について、本人・家族・ケアマネ等と面談し情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察の中で気になったこと等を記録するノートを作り、スタッフ間で情報共有できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、日常の様子や健康状態を見ながら、スタッフでケアの在り方を話し合い、家族の意見も聞きながら介護計画を作成している。	利用者、家族の要望、意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。コスモスの花、桜が好きで見たいとの願望を取り入れ近辺に見学に行った利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子他個人記録に残している。その中で得た情報はスタッフ間で共有し、必要があればユニット会議で検討し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナが五類に移行してから面会等少しずつ実施出来るようになった。 地域の祭り見物等、社会参加も援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に見物に出かけたり、誕生日等には近くのお店に外食に出かける等行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医師に定期的に往診に来ていただいている。利用者の体調不良時にも往診に来ていただいている。予防接種時等は家族に連絡し行っている。	今迄どおりのかかりつけ医等、利用者と家族が納得した医師の診察を受けている。予防接種や体調に変化がある時は事業所の看護師がそれぞれの医師に連絡や相談をして適切な医療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日の日中は看護職員が勤務しており、利用者の様子や状態を報告・相談している。また、看護職員が休みの際には、電話連絡で指示を仰げる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と連絡を取り合って情報交換を行い、状態の把握に努めている。また、退院時には病院とのカンファレンスを行い、利用者がスムーズに日常生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に合わせて、家族との連絡、話し合いを行っている。看取りを行う場合は家族の同意のもと看取りを行っている。	入所時に重度化した場合の説明をし利用者、家族の理解を得ている。利用者の背景も把握した上で「家族から自然な形で看取りたい」との要望を受け今年度も看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修で初期対応の訓練を行い学んでいる。また、会議等で事故報告やヒヤリハットの見直しを行い、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置しマニュアルの見直しやBCP作成に取り組んでいる。防災避難訓練を行い、避難経路を確認している。また、定期的に研修を行い、避難対応が身につく様努めている。	地域の避難場所でもあり特に火災に重点を置いて訓練している。運営推進会議の後参加者が実際に非常階段で降りたり家族に車椅子を利用して避難して貰う等して日頃から訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の際などに本人様、他利用者様に聞こえないように誘導や報告をするよう心掛けています。	トイレ誘導にも大声を出さない様に気を配り排泄時の手伝いも利用者の了解を得てから行う様にしている。居室に入る時のノックの音にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パジャマに着替えるか確認したり、お風呂の後着る服を一緒に選んだりする等して、利用者様から何をしたいか、また、何を食べたいかなどを聞き、自己決定できる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前日寝られていない方や、看取りの利用者には臥床の機会を作ったり、その方に合わせた暮らしをして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、利用者様によっては眉毛を描いたり、髪を結ぶシュシュを選んでもらったりする。行事等の外出時には一緒に服を選んだり、化粧やネイルをしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人様が好きな食べ物を提供したり、昼ご飯や夕ご飯の準備をして作る楽しみを味わっていただいている。	季節の食材を使用し旬を味わい家族から貰った落の皮むきや料理の盛り付け等利用者の得意とする分野で参加している。利用者の状態に合わせてミキサー食、刻み食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記録している。体調によって食事の形態を変更し、状態に合わせた食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方にはして自力でいただき、介助でも行っている。歯周病がある方にはうがい液を使い口腔内を清潔に保っている。定期的に歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能を活かしながらトイレ誘導解除を行っている。状況に応じてパッド・リハビリパンツ・オムツの使用をしている。出来る限りトイレでの排泄をしていただけるよう支援に努めている。パンツの上げ下げだけできる方にはリハビリパンツに貼り付くパッドを使用し、自立支援に努めている。	一人ひとりの排泄動作の状況やリズムを把握してタイミングを見計らって声掛けやトイレ誘導を行っている。布パンツとパット等を併用して出来る限りトイレで排泄が出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続いている利用者には水分摂取を促し、歩行運動も積極的に働きかけている。排便の調整が必要な方に対しては看護職員に相談しながら排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態、希望に合わせて均等に入浴できる様努めている。入浴を好まない利用者に対しては、先に散歩に誘い気分をあげてもらったり、入浴後に着る服を選んで楽しんでもらったりしている。	午後の明るい時間に3～4回に1回のペースで同性介助等利用者の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の状況に合わせて、夜間の入眠状況をスタッフ・看護職員と共有し、安眠できない方については検討・相談している。入浴前にリビングにみんなで集まって一緒にお茶を楽しむ等のリラックスできる時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の体調の変化にも注意し観察をしている。日々の生活の様子を観察し、作用が強出いたり、体調の変化を医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々出来る限り楽しんで頂ける様、一緒にカラオケやコーラスをしたり、一人一人の出来ること、料理や洗濯物を干して頂いたり、季節によって笹巻きづくりをしたりと、充実した時間を過ごして頂ける様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも少し緩和され、利用者様や家族の方の要望があれば、外出されたり、デリバリー等を利用し、苑での食事とは違った趣の食事を提供している。家族の協力のもと一時帰宅や車いすでの周辺の散歩・買い物も行っている。	「天神さん、花火大会」等の地域の行事、外気浴や散歩、季節毎の花見に出掛けている。家族の協力で大晦日には家族と年越しそばを食べに帰る利用者の誕生日には外食に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を持っておられる方はいない。お小遣いとして事務所で預かっている。誕生日をお祝いして外出に出られる利用者様と仲のいい方はお小遣いを利用して一緒に食事に出かけて頂いている。家族の協力のもと外出先で好きなものを購入される機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人用の携帯電話を持っておられる利用者様は複数おられる。充電や使い方、取次等の手伝いをしている。又、家族の知らない電話(TVショッピング等)をかけられた場合などは家族に報告し、必要に応じて対処して頂いている。苑用タブレットでTV電話などをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやラウンジには利用者様に作って頂いた季節感にあふれた作品や行事での写真などを貼り、利用者様や家族に見て頂いている。お風呂ではバスクリンなどを入れ、色や香りを楽しんで頂いている。又、脱衣場は浴室との温度差があるため扇風機やストーブを置き、浴後の心地よさを維持するようにしている。	季節の花や装飾品を置き日頃の利用者の様子を撮影した写真を壁に貼る等して季節を感じ楽しく明るい共同空間となる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはコロナ禍以後テーブルの大きさや配置、間隔の空け方により少し狭くなったように感じるが、以前のようにソファを置いて自席とは別の場所で過ごせるようにしている。またリビングから出た廊下にもソファを置いていて一人になりたい時などに利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドと洗面台以外は本人の使い慣れたものや希望の物を使って頂いている。また本人の状態に合わせベッドや手すりの設置、歩行器やトイレなど工夫をして出来る限り自立した生活をして頂ける様心掛けている。	大好きな動物のぬいぐるみ、パッチワークの作品、家族写真、以前使っていた筆筒等持ち込み、家での環境に近い状態で落ち着いて安心して生活出来る様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は入居時に出来る限りその方の状態に合わせて決めさせていただいている。例えば、常に家のことが気がかりな地元の入居者には、いつでも家が確認できる場所に居室を設けて、安心した生活を提供している。		